

ノーベル賞 大隅氏講演

崇城大50周年「挑戦が重要」

熊本市西区の崇城大の開学50周年を記念した講演会が13日、同市中央区のホテル日航熊本であり、2016年のノーベル医学生理学

術学部設置に伴い、名称を変更した。05年には薬学部を増設し、現在5学部10学科に約3700人が学ぶ。

賞を受賞した大隅良典・東京工業大荣誉教授が「小さな細胞、酵母に向き合った40年」と題して講演した。

記念講演には、大学や教育関係者ら約700人が出席。大隅氏が、ノーベル賞受賞理由となった生物の細胞が自分自身のタンパク質を分解して再利用する「オートファジー（自食作用）」について話

崇城大は1967年、熊本工業大として開学。2000年の芸

術学部設置に伴い、名称を変更した。05年には薬学部を増設し、現在5学部10学科に約3700人が学ぶ。



ノーベル医学生理学賞受賞者の大隅良典・東京工業大荣誉教授が講演した崇城大の開学50周年記念講演会＝熊本市中央区

した。

大隅氏は「自食作用には栄養素のリサイクルと有害な成分を除去する二つの大きな役割がある」と説明。基礎研究を大切にしてきた姿勢が作用のメカニズム解明につながった経緯も紹介し「新しい分野にチャレンジすることがサイエンスには重要だ」と話した。

講演後、中山峰男学長は「自分のやりたいことを見いだし、将来成就可以る学生をこれからも育てたい」と述べた。50周年を祝う式典「感謝の集い」もあった。（松本敦）